

グアテマラ現地報告

Vol. 17 2013年5月号

2012年11月7日、中米のグアテマラで巨大地震が発生しました。

エルサルバドルのカウンターパート“Fundipro”のスタッフが支援に向かい、その報告が送られました。



避難所へ向かう被災家族と支援スタッフ



食品や日用品を配布する様子



学校が崩壊したため外で勉強する子供たち



被災地の子どもたちと支援スタッフ

現地はまだ復興途上で、特に被害の大きかった地区は低所得者の多い古い都市でした。これらの地域は物資の不足など課題が山積みです。損壊家は26,000戸以上あり、大きな余震で倒壊する危険にさらされています。また、寒さが厳しく、3万人以上の人々が避難生活を送っているうえ、政府や国際機関の支援が十分に届いていない地域もあります。

このような隣国の緊急事態に対して、私たちにできることは被災者への継続的な支援です。エルサルバドルでは、大学生を含むグループを組織し、支援活動を早急に進めました。日本に対しては、継続的な資金援助を依頼しました。

地元のボランティアグループ“SEJUVE”（アステカのネズミ）の現地スタッフは私たちの活動の趣旨を理解し、ボランティア滞在のための食料や住居の確保などを手助けしてくれ、現地調査とそれに基づく援助活動がはじまりました。

現在わたしたちが活動しているのはサン・ペドロ市という人口3万5千人の小さい街です。この街は海拔2,389mでこの時期はとても寒く、夜になると5~6℃まで下がります。この街の3分の1が被災しており、一時は、一万人が病院に収容されたとのことでした。避難所は足りず、親戚の家などに避難している人も多くいます。被害の大きかったサン・ペドロ市は被災者を収容できる公共施設が残っていないため、避難所の多くは隣のサン・マルコ市内に集中しています。どの避難所も飽和状態で、ある避難所には23世帯もの人々が避難していました。食事は配給制で、街の中心にある公営の巨大な食堂は衛生状態が悪く、人々の足は遠のいています。問題は援助不足です。地元行政機関はさらに大きい食堂の検討と物資の提供を約束していますが、一世帯につき30ケツァル（約4米ドル、約400円未満）が支給されるのみです。このような惨事の中で、被災された方々が一日も早く人間的な生活に戻ることを願いながら、現在も活動を続けています。

私たちができることは人々に寄り添い、必要なものを継続的に運ぶことです。現在、交代制でボランティアスタッフが常駐し、子どもたちの教育や物資運搬の手伝いなどを行っています。少しずつですが、建物もない緑の空き地に、第二の「みつばち保育所」のような場所ができつつあります。

アンドレア・ロマーニ(エルサルバドル現地スタッフ)

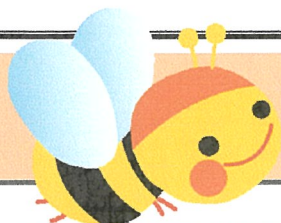
グアテマラ概要

国の大きさは北海道と四国を合わせたよりやや大きいくらいの面積で、人口は1471万人(2011年国立統計(推計)による)。1821年9月15日にスペインから独立した。国旗の中央には自由を象徴する鳥、「ケツァール」が描かれている。首都はグアテマラシティ。

人口構成は先住民が約4割を占め、混血・欧州系が約6割を占める(2006年国立統計)。主な産業はコーヒーやバナナ、砂糖などのプランテーション農業。低地は熱帯性気候だが、高地は日較差が激しい。雨季と乾季がある。

出展:朝日新聞平成24年11月8日





チャリティーバザー報告



◆クリスマスチャリティーバザー◆

2012年12月23日(日)名古屋市内の本山生協会館にてチャリティーバザーを行いました。会場の一角では、昨年11月、中米グアテマラで起きたマグニチュード6.5の地震発生直後から現地に物資など必要な支援を続けてきた、カウンターパートFundipro(フンディプロ：見捨てられた児童のための援助協会)からの活動の様子を展示しました。来場者の中には、地震があったことさえ知らなかったと驚くお客さまもいました。今回の収益金は、Fundiproを通じてグアテマラで被災された方々へ義援金として、そしてエルサルバドルのみつばち保育所へ教育支援金として送らせていただきました。

今回初めてカフェコーナーを設け、NPO法人「ポパイ」さんの手作りクッキーと珈琲を準備しました。買い物後、休憩がてらお立ちよりいただいたお客さまがたくさんいらっしゃいました。



◆初めてスタッフとしてバザーに参加した社会人の声◆

今回初めてカフェコーナーでウェイターとして皆と働きました。このバザーを通して分かったことは、「一人では恥ずかしいことでも、共通の目的をもつ仲間とならできる」ということです。閉店30分前、お客様を会場へ呼び込みたい一心で外に出ると、すでに他のメンバーが一生懸命、品物を紹介する姿を見かけました。その瞬間、同じ気持ちで働いている仲間が側にいることに感動しました。仲間の存在は大きな励みとなり、躊躇しそうな背中を押してくれました。「こんなに寒い中、君たちは頑張っているから」、「支援金のためなら、もっと購入するよ」など、お客さまからの温かい言葉に支えられながら皆で分かち合う達成感は、寒さも吹き飛ばくらしいものでした。私は普段、営業の仕事をしています。商品やサービスの質も大切ですが、最終的に人の心を動かすのは人の熱意や情熱なのだと気づきました。また協力し合える仲間が側にいることへの感謝も強く感じました。

(会社員 西牧 宏尚)



2/17(日)◆チャリティーフリーマーケット◆ 愛・地球博記念公園にて



アクセサリや冬服、
生活雑貨を中心に
販売しました♪

2/17(日)◆チャリティーバザー◆ NPO法人ポパイ(名古屋市西区)にて



ポパイでは靴や春服
お菓子などを販売
しました♪

文化講演会報告

From Nuclear to NEW & CLEAR

—賢い選択へ向って—

2013年1月12日(土)、京都大学原子炉実験所助教の小出裕章先生をお招きし文化講演会を行いました。福島原発事故直後から、精力的にマスメディアやインターネットで原発反対の声を発信されておられます。会場には約200人が集まり、原発と原子力・核開発についてのお話を聞きました。参加者の感想をお伝えします。

今回、学者の立場から40年以上原発に反対し続けている小出裕章先生の講演会に参加しました。先生は原子力の平和利用に夢を抱き大学に進学しました。しかし、危険な原発は都会に建てられず、大都会で使う電気が遠く離れた過疎地で作られることに矛盾を感じ、反対運動に関わるようになったそうです。

講演の中で小出先生が特に強調されていたテーマは戦争と平和についてでした。「福島原発事故の話も重要ですが、若い人にとってはこれから戦争する時代に入るかもしれないということを考えると、戦争と平和の話はそれに劣らず非常に大切な話です。」このように講演会の始めにお話しされました。東京大空襲で犠牲になった親子の写真、原爆を落とされた広島と長崎の写真を見て、犠牲になったのは兵士だけではなく、多くは何十万もの一般人であるという悲惨な歴史を思い出しました。もし日本が愚かにも再び戦争をすることになれば、これらの歴史は単なる過去の出来事ではなく、これからも起こり得る現実であるということを深く考えさせられました。



小出裕章氏

1949年東京都出身。東北大学工学部原子核工学科卒、同大学院修了。
京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻助教。



質問する大学生

原発に関して、マスメディアと電力会社によ

って広められている偽り(化石燃料はあと数十年で枯渇するから原子力に頼るしかない、原発による電気は安い等)についても話して下さい、何が真実であるかは自分で確認しなければならないと改めて感じました。

何故、日本政府はここまで原発にこだわるのでしょうか。その理由は金儲けのためだけではなく、核開発のためであることもお話になりました。北朝鮮やイランが“Nuclear Development”を行えば「核開発」、日本であれば「原子力開発」とするとマスメディアによって宣伝されますが技術としては同じものです。原子炉と再処理工場はもともと核兵器を生み出すために開発された技術です。先の戦争で日本に侵略されたアジア諸国から見れば、それらを所有する日本は平和の仮面を被っているだけであり、危険な国であることに変わりはないでしょう。今起きていることと歴史に対して無関心であり無知であることが、最も無責任であることを実感し、より賢い選択と判断ができるようにもっと学ばなければならないと感じました。



講演会場

INFORMATION

■スプリングチャリティーバザー開催■

場所：本山生協会館2階（名古屋市千種区稲舟 1-39）

最寄駅：地下鉄東山線本山駅 4 番出口徒歩 5 分

日時：平成 25 年 7 月 7 日(日)

10:00 から 16:00 まで

＊品物の寄付をお待ちしています＊

現在、バザー物品の回収を定期的に行っています。

日時：6 月 29 日（土）

16：30～17：00

場所：本山生協会館 2 階

書き損じはがきも同時に集めています。

皆様のご協力をお待ちしています。

連絡先：080-4306-1057
(山田まで)



12月23日、4月21日に開催したバザーでは、グアテマラで起きた地震災害について現地のスタッフから届いた情報や活動の様子も展示しました。
上の写真は現地の子供たちと、エルサルバドルから援助に向かったみつばち保育所のスタッフです。

■各文化講座のお知らせ■

※各文化講座は事前のお申し込みが必要です。詳細は下記までご連絡ください。
お電話にてご準備していただくものもお伝えいたします。

●南イタリア料理講座●

（毎月 1 回開催）

場所：ウィルあいち

（地下鉄名城線 市役所駅下車）

申し込み・問い合わせ：080-4306-1057(山田まで)

●絵画講座●

（毎月 2 回開催）

場所：本山生協会館

（地下鉄東山線 本山駅下車）

申し込み・問い合わせ：080-4306-1057(山田まで)



水彩/生徒作品

会員募集

オリーブジャパンの活動に賛同していただける会員の方を随時募集しています。

- ・ 賛助会員（一ヶ月一口 10,000 円）
- ・ 正会員（一ヶ月一口 5,000 円）
- ・ 協力会員（一ヶ月一口 2,000 円）
- ・ 参加会員（一ヶ月一口 1,000 円）
- ・ 同調会員（一ヶ月一口 500 円）

郵便振込用紙に必要事項と会員の種類、納入方法
（月払い／年一括）をご記入の上、会費を納入ください。

ゆうちょ銀行(郵便局)

振替口座番号

00890-1-24582

＊お問い合わせは、下記連絡先まで

オリーブ・プレス Vol.17 2013 年 5 月発行

オリーブジャパン国際開発協力協会 olivejapan80@hotmail.com